

UiPath Orchestrator

Azure one

V2019.10

-

Information contained herein is confidential and may be disclosed only with the written permission of UiPath. All rights reserved.

UiPath Robotic Process Automation ®



リビジョン履歴

Date	Version	Author	Description
14 th Sep 2020	1.0	Yosuke Kajimoto	First version for v2019.10 release



- UiPath のソフトウェア、製品、サービス、(これには、UiPath Orchestrator、UiPath Robot、UiPath Studio が含まれますが、これらに限りません)はアメリカ合衆国で登録されたUiPath Inc.、および他の国・地域で登録さ れたUiPathの関係会社の商標または登録商標です。UiPathのロゴはUiPath Inc.,が所有するものであり、 UiPathの事前の明示的な許可なく、お客様及びその他の方が使用することはできません。
- Microsoft のソフトウェア、製品、サービス (これには、Microsoft、Windows、Windows Server、SQL Server 及び Active Directory が含まれますが、これらに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Microsoft Corporation 及び他の国・地域で登録されたその関係会社の商標または登録商標です。
- Oracle のソフトウェア、製品、サービス (これには、Java も含まれますがこれに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Oracle 及びその他の国・地域で登録された関係会社の商標または登録商標です。
- Elastic は、 Elastic N.V. 及びその関係会社の商標または登録商標です。
- Redis は、Redis Labs Ltd の商標です。
- その他、記載されている製品名、会社名およびサービス名はそれぞれの各社の商標または登録商標です。

免責事項

- 本ガイドの内容は 2020 年 9 月現在の情報であり、下記の製品リリースに基づいております。
 - UiPath Orchestrator v2019.10
- 製品の新しいリリース、修正プログラムなどによって、本ガイドの説明と異なる動作・仕様となる可能性がありますので、 予めご留意ください。
- 本ガイドに含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、UiPath株式会社の正式なドキュメントではありません。本ガイドに記載された内容に関してUiPath株式会社は何ら保証していません。従って、本ガイドに含まれる情報の利用はお客様の責任においてなされるものであり、UiPathはガイドの内容によって受けたいかなる被害に関して一切の補償をするものではございません。
- 本ガイドは UiPath を法的に拘束する書類ではありません。UiPath はお客様に通知なくして、本ガイドの内容の一部 または全部を修正及びアップデートできます。
- お客様は UiPath および執筆者の書面の承諾なしで本ガイドを複製、修正、頒布できません。



内容

リビジ	ジョン履歴2
商標は	こついて
免責	軍項
目次.	
0.	前提5
1.	構成5
2.	Azure 利用サービス一覧
3.	リソース作成



0. 前提

事前に Microsoft Azure のアカウント作成及びサブスクリプションの設定が有効化されている事を前提とします。 本手順は UiPath から提供される Azure one 用スクリプトを利用して各 Azure リソースをプロビジョニングする手順となります。 https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/docs/orchestrator-prerequisites-for-installation 環境構築作業者は UiPath Orchestrator の知見に加え、Microsoft Azure の知見を有している事が望ましいです。 また、事前に Azure リソースグループをご準備ください。

1. 構成

本ソリューションの構成は下記を想定





2. Azure 利用サービス一覧

本ソリューションにおける Azure 利用サービス一覧

	Azure サービス	マネージド/ アンマネージド	SKU / サイズ / プラン	備考
Orchestrator	AppService	アンマネージド	P1V2	-
Database	SQL Server / SQL database	マネージド	DTU Premium P1 (125)	-
Storage	StorageAccount	マネージド	Standard/Hot	-
	AzureFileSync (2018.4のみ)	マネージド	ファイル共有 64GB	-



3. リソース作成

① リソースグループを作成します。

	○ 更新 → 移動 〜 业 CSV にエクスボート % クエリを得	1 ♀ 夕夕の割り当て ■ 削除 …
▲ 《基本		
サブスクリプション (変更):従量課金	デプロイ:展開がありま	
サブスクリプション ID : 123d591b-f4a9-4bb9-850e-39	2e73a8b691	
タグ (変更) : displayName : azureone2019	10	
名前でフィルター 種類 == (すべて) ×)	場所 == (すべて) × ⁺ ₇ フィルターの追加	
0件中 0 ~ 0件のレコードを表示しています。 🗌 非表示の)型の表示 ①	グループ化なし 🗸 リスト
名前 ↑↓	種類 个↓	場所 ↑↓
	±	
	表示するリソースがありません	
	 ▲ 参本 サブスクリブション (変更): 従量課金 サブスクリブション ID :: 123d591b-f4a9-4bb9-850e-39 ダグ (変更) : displayName : azureone2019 名前でフパルター ④ 件中 0 ~ 0 件のレコードを表示しています。 □ 非表示の 名前 ↑↓ 	 ▲ 基本 サブスタリプション (変更): 従量課金 デブロイ: 展開がありま サブスタリプション ID :: 123d591b-f4a9-4bb9-850e-392e73a8b691 ダグ (変更) :: displayName : azureone201910 名前でフパルター 種類 == (すべて) × 場所 == (すべて) × キャ フィルターの追加 0 件中 0 ~ 0 件のレコードを表示しています。 非表示の型の表示 ○ 名前 ↑ 種類 ↑↓ 表示するリソースがありません

② AppService を作成しておきます。

Web アプリの作成		
基本 監視 タグ 確認	および作成	
App Service Web Apps を使用する を素早くビルド、デブロイ、スケーリンク オーマンス、スケーラビリティ、セキュリテ	らと、任意のプラットフォームで実行するエンタープライズレベルの Web ア でさます。フル マネージド プラットフォームを使用してインフラストラクチャッ イおよびコンプライアンスの要件を確実に満たしてください。 詳細情報 🛙	プリ、モバイル アプリ、 API アプリ ペンテナンスを実行するには、 パフ 3
プロジェクトの詳細		
デプロイされているリソースとコストを管 整理し、管理します。	理するサブスクリブションを選択します。フォルダーのようなリソース グルーン	ブを使用して、すべてのリソースを
サブスクリプション * ①	従量課金	~
リソース グループ * 🕠	AzureOne201910	~
	新規作成	
インスタンスの詳細		
名前 *	azureone01	
		.azurewebsites.net
公開 *	 ● コード ○ Docker コンテナー 	
ランタイム スタック *	ASP.NET V4.7	~
オペレーティング システム *	Linux • Windows	
地域 *	Japan East	
	① App Service プランが見つからない場合、別のリージョン	ョンをお試しください。
App Service プラン		
App Service プランの価格レベルによ	って、アプリに関連する場所、機能、コスト、コンピューティング リソースが	決定されます。 詳細情報 🛙
Windows プラン (Japan East) * (〕 (新規) azureone	\sim
	新規作成	
SKU とサイズ *	Premium V2 P1v2	
	ACU 合計 210, 3.5 GB メモリ サイプを亦更します	
	71AC& 2049	

Application insights を有効にする

ホーム > リソース グループ > AzureOne201910 > 新規 > Web アプリの作成				
基本 監視 タグ 確認および作成				
ーーーー Application Insights は、アプリケーションについて詳細な監視を行うためのコードなしのアタッチです。 詳細情報 🛙				
Application Insights				
Application Insights を有効にする *				
Application Insights *	(新しい) azureone01 (Japan East)	\sim		
	新規作成			
地域				

③ <u>SQL database(SQL サーバ)を作成しておきます</u>



データベース名:UiPath

サーバー:新規で作成



ホーム > リソース グループ > AzureOne2019	910 〉 新規 〉	
SQL データベースの作成 Microsoft		
基本 ネットワーク 追加設定 タグ	確認および作成	
ご希望の構成で SQL データベースを作成します。[するか、各タブに移動してカスタマイズします。 詳細	基本] タブをすべて入力し、[確認と作成] に移動して、スマートな既定値でプロビジョ 画情報 ^[2]	ニング
プロジェクトの詳細		
デブロイされているリソースとコストを管理するサブス 整理し、管理します。	レクリプションを選択します。フォルダーのようなリソース グループを使用して、すべてのリン	ノースを
サブスクリプション * ① □	從量課金	\sim
└─── リソース グループ * ①	AzureOne201910	\sim
	新規作成	
データベースの詳細		
論理サーバーの選択や、コンピューティング リソースと	とストレージリソースの構成など、このデータペースに必要な設定を入力します	
データベース名 *	UiPath	
サーバー* ①	(新規) azureone01 (東日本)	\sim
	新規作成	
SQL エラスティック プールを使用しますか? * ①		
コンピューティングとストレージ * ①	 汎用目的 Gen5、2 仮想コア、32 GB ストレージ データペースの構成 	

SQL データベースの作成 Microsoft のデータベースに適用されます。詳細情報 ^{[2}	
ネットワーク接続	
パブリック エンドポイントまたはプライベート エンドオ を選択すると既定値を使用して作成され、サーバ	ポイントを使用してサーバーへの接続を構成するためのオプションを選択します 一の作成後に接続方法を構成できます。詳細情報 ☑
接続方法 🌯 🛈	 アクセスなし パブリック エンドポイント プライベート エンドポイント
ファイアウォール規則	
[Azure サービスおよびリソースにこのサーバーへのア 許可されます。これは、サブスクリプションの一部で [現在のクライアント IP アドレスを追加する]を [は す。	クセスを許可する]を [はい] に設定すると、Azure 境界内のすべてのリソー; である場合もあれば、一部でない場合もあります 詳細情報 ^[2] い] に設定すると、クライアント IP アドレスのエントリがサーパーのファイアウォー
Azure サービスおよびリソースにこのサーバーへのア クセスを許可する *	' LILIX (til)
現在のクライアント IP アドレスを追加する *	

接続方法:ここではパブリックエンドポイントを選択

Ui	Path [™]
----	-------------------

SQL データベースの作成		
Microsoft		
基本 ネットワーク 追加設定 タグ	確認および作成	
照合順序データやサンプルデータなどの追加の構成	ンパラメーターをカスタマイズします。	
データ ソース		
空のデータベースで開始し、バックアップから復元する	らか、新しいデータペースに設定するためのサンプル データを選択します。	
既存のデータを使用します *	なし バックアップ サンブル	
データベース照合順序		
データベースの照合順序は、データの並べ替えと比較 ペースの既定の照合順序は、SQL_Latin1_Genera	対に使用する規則を定義したものであり、データペースの作成後は変更できません。 データ Ⅰ_CP1_CL_AS です。 詳細情報 □	
照合順序* ()	Latin1_General_CI_AS	
Ŗ	照合順序を検出します	
Advanced Data Security		
Advanced Data Security を使用してデータを保護します。これは、データ分類、脆弱性評価、Advanced Threat Protection を含む、サー パー用の統合セキュリティ パッケージです。 詳細情報 □		
まず 30 日間の無料試用期間を利用し、サーバーごとに月々 1680 JPY となります。		
AL ID. C . ++++-+-+ 0 (—————————————————————————————————————	
確認および作成 <前へ	次: タグ >	

照合順序は "Latin1_General_CI_AS" を選択

DB 作成後、App Service 側の接続文字列の設定を行う。

₩₩ oc 構成		×
	ー ア. 接続文字列の追加/編集	×
デプロイメント		
🏜	राम् इरं Default	Ð
🏦 ቻプロイ スロット		
🕼 デプロイ センター	19 Server=tro:stackuinath database windows net 1433 Initial Catalon=LiPath:Persist Security Info=Fake:Liser ID=uinathdb	ſ'n
設定		
₩ 構成	e 使 和 対 SOISoner	
∲ 認証/承認		
Application Insights		
🐍 ID		
💣 バックアップ		
🧮 ታፓንቅ እንዲስ እንዲስ እንዲስ እንዲስ እንዲስ እንዲስ 📃	接	
🎈 TLS/SSL の設定	4	
↔ ネットワーク		
🖸 スケール アップ (App Service の	そ OK キャンセル	

"種類"は" SQLServer "にする。

"Server=tcp:stckuipath.database.windows.net,1433;Initial Catalog=UiPath;Persist Security Info=False;User ID=uipathdbuser;Password={password};MultipleActiveResultSets=False;Encrypt=True;TrustServerCertificate=Tru e;Connection Timeout=30"



④ Storage アカウントを作成しておきます。(nuget を保存するための場所)



ホーム > リソースクループ > AzureOne2019 フトレージ アカウントの作品	10 > azureone01 > AzureOne201910 > 新規 > ストレーシ パカワント >	
基本 ネットワーク データ保護 詳細	日 タグ 確認および作成	
Azure Storage は、高可用性、セキュリティ、耐: ビスです。 Azure Storage には、 Azure BLOB (オ が含まれます。 ストレージ アカウントのコストは、 使	久性、スケーラビリティ、冗長性を備えたクラウド ストレージを提供する Microsoft が管理するサ プジェクト)、Azure Data Lake Storage Gen2、Azure Files、Azure Queues、Azure Tables 用量と、下で選ぶオプションに応じて決まります。 Azure ストレージ アカウントの詳細 ♂	ē
プロジェクトの詳細		
デブロイされているリソースとコストを管理するサブス し、管理します。	Rクリプションを選択します。フォルダーのようなリソース グループを使用して、すべてのリソースを整き	田井
サブスクリプション *	従量課金	
リソース グループ *	AzureOne201910	
	新規作成	
インスタンスの詳細		
既定の展開モデルは Resource Manager であ 選択できます。 クラシック展開モデルを選択しま	人 これは最新の Azure 機能をサポートしています。 代わりに、 従来の展開モデルを使った展開せ す	
ストレージ アカウント名 * 🕕	azureonesa	
場所 *	(Asia Pacific) 東日本	
パフォーマンス ①	● Standard 🔵 Premium	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ①	Standard Premium StorageV2 (汎用 v2)	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ① レブリケーション ①	 Standard Premium StorageV2 (汎用 v2) ゾーン冗長ストレージ (ZRS) 	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ① レプリケーション ① アクセス層 (既定) ①	 Standard Premium StorageV2 (汎用 v2) ゾーン冗長ストレージ (ZRS) クール ● ホット 	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ① レブリケーション ① アクセス層 (既定) ①	 Standard Premium StorageV2 (汎用 v2) ゾーン冗長ストレージ (ZRS) クール ホット 	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ① レブリケーション ① アクセス層 (既定) ①	 Standard Premium StorageV2 (汎用 v2) ゾーン冗長ストレージ (ZRS) クール ・ ホット 	
バフォーマンス ① アカウントの種類 ① レプリケーション ① アクセス層 (既定) ①	 Standard Premium StorageV2 (汎用 v2) ゾーン冗長ストレージ (ZRS) クール ・ ホット 	

ホーム > リソース グループ > AzureOne201910 > azureone01 > AzureOne201910 > 新規 > ストレージ アカウント > ストレージ アカウントの作成		
基本 ネットワーク データ保護	詳細 タグ 確認および作成	
ネットワーク接続		
ストレージ アカウントには、パブリック IP ア イベートに接続することもできます。	ドレスまたはサービス エンドボイント経由で公的に接続することも、プライベート エンドボイントを使用してプラ	
接続方法 *	(●) パブリック エンドボイント (すべてのネットワーク)	
	○ パブリック エンドポイント (選択されたネットワーク)	
	プライベート エンドポイント	
	🚯 すべてのネットワークで、このストレージ アカウントにアクセスできます。 接続方法の詳細 🖻	
ネットワーク ルーティング		
トラフィックがソースから Azure エンドポイン	ヽに移動するときに、トラフィックをルーティングする方法を決定します。ほとんどのお客様には、Microsoft ネットワーク ルーティングが推奨されています。	
↓ ルーティングの優先順位 * ①	● Microsoft ネットワーク ルーティング (既定)	
	○ インターネット ルーティング	



セキュリティ設定を有効にします。

ストレージ アカウントの作成			
基本 ネットワーク データ保護 書	羊細 タグ 確認および作成		
セキュリティ			
安全な転送が必須 ①	○ 無効 ● 有効		
BLOB パブリック アクセスを許可する ①	○ 無効 ● 有効		
TLS の最小バージョン 🔅	Version 1.0 V		
インフラストラクチャ暗号化 ①	● 無効 ○ 有効		
	⑦ 現在、サブスクリプションごとのインフラストラクチャ暗号化を有効にするには、サインアップする必要があります。 インフラストラクチャ暗号化にサインアップする ♂		
Azure Files			
大きいファイルの共有 ①	● 無効 ○ 有効		
Data Lake Storage Gen2			
階層構造の名前空間 ①	● 無効 () 有効		
	⑦ データ保護と階層型名前空間を両方とも有効にすることはできません。		
NFS v3	● 無効 ○ 有効		
	⑦ 現在、サブスクリブションごとに NFS v3 の機能を使用するには、サインアップする必要があります。 NFS v3 にサインアップする ℃		

⑤ OC インストール

パッケージを入手し所定の場所に配置(UiPath.Orchestrator.Web.zip)

VM(Bastion)を新規で構築し、RDP 経由で OC をインストールしていきます。

※① WebDeploy が入っていない場合は別途インストールする。 https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=43717

※② "azureAccountPassword"を生成しておきます。 下記を参考にアプリケーションを登録して、サービスプリンシパルを作成する。 https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/develop/howto-create-service-principalportal#register-an-application-with-azure-ad-and-create-a-service-principal

-azureAccountPassword は AAD -> アプリ登録 -> 証明書とシークレット内の"クライアントシークレッ

ト"

※③ subscription 内の IAM でロールを許可設定しておく。

※④ インストールスクリプト用のパラメータに関する情報は下記を参照ください。 https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/v2019/docs/publish-orchestrator-ps1-parameters

以下インストール例: https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/v2019/docs/publish-orchestrator-ps1-parameters#single-nodeinstallation

Azure One UiPath Orchestrator 導入

.¥Publish-Orchestrator.ps1 `
-action "Deploy" `
-unattended `
-package "C:¥UiPathOrchestrator¥UiPath.Orchestrator.Web.zip" `
-stopApplicationBeforePublish `
-azureSubscriptionId "xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
-azureAccountTenantId "xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
-azureAccountApplicationId " xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
-azureAccountPassword "{PASSWORD}" `
-resourceGroupName "AzureOne201910" `
-appServiceName "azureone01" `
-hostAdminPassword "{hostadminPASSWORD}" `
<pre>-defaultTenantAdminPassword "{defaulttenantPASSWORD}" `</pre>
<pre>-nugetRepositoryType "Composite" `</pre>
-storageType "Azure" `
-storageLocation
"DefaultEndpointsProtocol=https;AccountName=stackuipathsa;AccountKey=XXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
ore.windows.net" `
-verbose

<pre>PS C:\Users\yosuke\Downloads\Us >> -action "Deploy" </pre>	iPathOrchestrator> .\Publish-Orchestrator.ps1 `	
> -unattended >> -package "C:\Users\yosuke\Downloads\UiPathOrchestrator\UiPath.Orchestrator.Web.zip"		
> -stupAccountId " " "		
<pre>>> -azureAccountApplicationId "d >> -azureAccountPassword "C" </pre>		
>> -resourceGroupName "AzureOne201910" >> -appServiceName "azureone01"		
>> -hostAdminPassword "ui >> -defaultTenantAdminPassword "ui		
<pre>>> -nugetRepositoryType "Composite" >> -storageType "Azure" >> -storageType "Azure" </pre>		
sinet" >>> -verbose	points + ococoi = necps, account name=acoreonesa, account key=,	
AzureRM module version 6 or gre Logged in to AzureRM	eater is already installed. Importing module	
Stopped the application azureone01-Production Waiting 30 seconds for azureone01-Production to shut down completely.		
Deploying package C:\Users\yosuke\Downloads\UiPathOrchestrator\UiPath.Orchestrator.Web.zip on website azureone01		
Web Deploy parameters:		
Name	Value	
storageType EncryptionKey sugstRessoritonuTupe	Azure Conscita	





Orchestrator にログイン https://[appserviceendpoint]

т− Ь >		
e azureone01 ☆ App Service		
	🖓 参照 🗌 停止 😅 スワッブ 🖒 再起動 前 削除 🞍 発行プロファイル	の取得 🔇 発行プロファイルのリセット 🛇 フィードバックをお送りください
🎨 概要	🔹 🕜 コードをアプリにデプロイする方法に関するクイック スタート ガイドにアクセスするには、ここをクリ	ックしてください →
🗧 アクティビティ ログ	~	
冷 アクセス制御 (IAM)	リソース グループ (変更)	URL
	AzureOne201910	https://azureone01.azurewebsites.net 🗅
⑦ 問題の診断と解決	状態 Running	App Service プラン azureone (P1v2: 1)
🜻 セキュリティ	場所	FTP/デプロイユーザー名
🗲 イベント (プレビュー)	東日本	FTP/デプロイ ユーザー セットがありません
	サブスクリプション (変更)	FTP ホスト名 ftp://www.prod.tv1-017 ftp zzurowobsitos.windows.pot/sito/www.r
デプロイメント		rtp://wwws-prou-ty1-017.rtp.azurewebsites.windows.net/site/wwwit
🏜 クイック スタート	ザフズウジンション10 123d591b-f4a9-4bb9-850e-392e73a8b691	FTPS //xxF名 ftps://waws-prod-ty1-017.ftp.azurewebsites.windows.net/site/www
は キプロイ フロット		

Ui Path [™]	
azureone01.azurewebsites.r	et/account/login 🛛 🔤
	Orchestrator
	Login
	1 You are logging in on tenant Default . <u>Change</u>
	Username or email *
	Password *
	Remember me <u>Forgot your password?</u> LOGIN
	English Terms and Conditions

Orchestrator が表示されている事を確認。

以上